

詩人ナージム・ヒクメットが詠んだ第五福竜丸事件

新井 春美

前回、トルコの国民的詩人ナージム・ヒクメットの「少女」を紹介したが^{*}、今回はヒクメットが第五福竜丸事件を知り 1956 年に詠んだ「日本の漁師」を紹介したい。

第五福竜丸事件とは 1954 年 3 月、太平洋のビキニ環礁を通過していたマグロ漁船・第五福竜丸がアメリカの水爆実験により被ばくした事件である。同船は被ばくから 2 週間後に自力で帰港したが、乗組員の多くが体調の異常を訴え、半年後には久保山愛吉無線長が亡くなった。

現在、第五福竜丸は二度とこうした惨事が起きないようにという願いのもと、東京都江東区夢の島公園内の展示館に保存されている。

この詩は「少女」ほど有名ではないが、事件の残酷さを雄弁に物語っている。書かれてからおよそ 70 年が経過した今日でも、若い漁師の言葉の端々に浮かぶ深い悲しみと絶望が胸に迫ってくる。



読売新聞 1954 年 3 月 16 日

日本の漁師

ナージム・ヒクメット

海上の雲に殺された
日本の漁師は若者だった
彼の親友から聞いたこの話
太平洋が真黄色に染まった夕方だった

ぼくらが釣った魚を食べた人は死ぬ
ぼくらの手に触れた人は死ぬ
この船は黒い棺
舷窓から入った人は死ぬ

ぼくらが釣った魚を食べた人は死ぬ
突然ではなく、ゆっくりゆっくりと
手は腐ってばらばらになる

ぼくらの手に触れた人は死ぬ
潮と太陽の光を浴びた
忠実で働き者の
この手に触れた人は死ぬ
突然ではなく、ゆっくりゆっくりと
手は崩れ落ちていく

恋人よ、ぼくを忘れて
この船は黒い棺
舷窓から入ったら死ぬ
ぼくらの船の上を雲が過ぎていった

恋人よ、ぼくを忘れて
抱きしめないで
死はぼくからあなたに移る
恋人よ、ぼくを忘れてくれ

この船は黒い棺
恋人よ、ぼくを忘れてくれ
あなたとぼくの子どもは腐った卵のようだ
この船は黒い棺
この海は死の海
人類はどこにいる
どこにいる

* 「詩人ナージム・ヒクメットが詠んだ原爆」令和7年(2025)8月
http://meis.or.jp/products/Turkey/Turkey_index.php